

防衛省防衛研究所仕様書			
件 名	戦史史料のデジタル化(カセットテープのデジタル化)	部 課 名	戦史研究センター

1. 総 則

1. 1 適用範囲

この仕様書は、防衛省防衛研究所（以下、「官側」という）が所蔵する戦史史料カセットテープ音声原資料（以下、「原資料」という）本体に記録されている音声信号をデジタル変換（以下、「デジタル化」という）した音声データの作成及び音声データ目録の作成について規定する。

1. 2 引用文書等

この仕様書に引用する次の文書は、この仕様書に規定する範囲内において、この仕様書の一部をなすものである。

(1) 引用文書

国立国会図書館資料デジタル化の手引 録音資料編（カセットテープ、ソノシート）(ISBN 978-4-87582-818-1)（平成 30 年 6 月作成）

(2) 関連文書

防衛省所管に属する物品の無償貸付及び譲与等に関する省令（昭和 33 年経理府令第 1 号）

調達品等に係る監督及び検査に関する訓令（昭和 44 年防衛庁訓令第 27 号）

秘密保全に関する訓令（平成 19 年防衛省訓令第 36 号）

秘密保全に関する達（平成 25 年防衛研究所達第 3 号）

防衛研究所の情報保証に関する達（平成 19 年防衛研究所達第 8 号）

2. 役務に関する要求

2. 1 作業内容

(1) 官側が貸付ける原資料の本体に記録されている音声信号をデジタル変換し音声データを作成する。

(2) (1) で作成した音声データを可搬記憶媒体（CD-R 又は DVD-R（以下、「CD-R 等」という））に格納する。

(3) カセットテープ 1 本に対し、1 つの可搬記憶媒体（CD-R 等）に格納する。

(4) 音声データデジタル化納品リストを提出する。

2. 2 作業対象数量等

(1) カセットテープ：158 本（内訳：120 分×111 本、90 分×35 本、60 分×11 本、30 分×1 本）

(2) 対象原資料：別紙第 1「カセットテープデジタル化目録（令和 4 年度）」

2. 3 納期

令和 4 年 12 月 9 日（金）

2. 4 資格要件

(1) 過去に国立国会図書館、国立公文書館又は文化・学術機関が所蔵するカセットテープの音声デジタル化を履行した実績を有すること。

(2) デジタル音声作成を行う作業者は、デジタル音声作成の経験を有すること。

2. 5 作業環境

(1) 提出及び納品する可搬記憶媒体（CD-R 等）及び印刷物は契約相手方が用意すること。

(2) 作業場所及び資器材等（官側貸付品除く）は、契約相手方が準備すること。

(3) 作業場所については、温湿度管理、防火・防水対策を行うこと。

- (4) 作業場所及び資器材等に関し、原資料の紛失・盗難、音声データの外部漏洩等を防止するための適切な対策を講ずること。特に、原資料は錠のかかる書庫等に保管し作業員以外の目に触れない対策を講ずること。

2. 6 情報の保全等

契約相手方は、本件に関して官側が提示した一切の情報(公知の事実等を除く。)及び本件に関連する作業の遂行過程において知り得た一切の情報(以下「本件に関する情報」という。)について、次の義務を遵守すること。

- (1) 本件に関する情報は、契約相手方、作業員及び官側が明示的に許可する者以外に開示又は提供しないこと。
- (2) 本件履行期間中及びかし担保責任期間中は本件に関する情報の取扱いについて、過失又は不正行為によって本件の責任者、作業員及び官側が明示的に許可する者以外の者に開示されることを防止するための適切な措置を講ずること。
- (3) 本件に関する情報を知り得た者が、異動、転職、退職等の事由によって本件と無関係になった場合でも、官側の書面による許可なく本件に関する情報を他者に開示させないこと。
- (4) その他官側の指示に基づいて守秘義務を遵守すること。
- (5) 官側は必要の都度、作業場所を訪問し保管状況及び作業環境の確認点検を実施する。また、作業で使用したデータ等については、納品後消去するとともに、契約相手方から官側に消去証明書を提出すること。

2. 7 準拠

- (1) 契約相手方は、契約後速やかに官側と作業打合わせを行い、作業実施計画を提出すること。
- (2) 作業実施計画には、作業管理体制(作業管理者、品質管理者(作業管理者と異なる者)及び作業員名簿含む)及び作業項目(A/D変換、音声データ作成、可搬記憶媒体格納及び納品物リスト作成)ごとに作業員、想定処理量、作業期間等を記載した週単位の工程表を含ませること。

2. 8 納入品

契約相手方は下記に示す成果物を、納期までに官側に納品すること。細部については、官側との協議に基づき実施するものとする。

- (1) 音声データ : 格納媒体 [CD-R 等]
- (2) 音声データデジタル化納品リスト : 格納媒体 [CD-R 等]
- (3) 格納媒体 [CD-R 等] は薄型透明プラスチックケースに格納して、3. 2 (10) の格納形式で納品すること。

2. 9 品質保証

- (1) 官側へ納品した成果物に不具合が発見された場合は、納入後1年間、契約相手方の責任において速やかに復旧等の対応を行うこと。
- (2) 復旧作業等により原資料の引渡しを受ける場合は借用書を提出すること。

3. 音声データの作成

国立国会図書館資料デジタル化の手引 録音資料編(カセットテープ、ソノシート)(ISBN 978-4-87582-818-1)(平成30年6月作成)参考資料(「カセットテープ音声の原資料からの電子化仕様書(本編)」)を参照のほか、以下に準ずる。

3. 1 音声データ作成の概要

原資料の音声データの作成作業の概要は次のとおりである。

- (1) 音声データ作成前に必ず試聴を行い、原音の音質確認を行う。
- (2) 専用の再生機器を用いてカセットテープを再生しつつ同時にA/D変換器によりデジタル化作業を行い、音声データを作成しコンピュータ上に記録する。
- (3) デジタル化した音声データの音質確認のため検聴を行う。
- (4) 検聴の結果、特に異常が認められない場合は、官側が指定した形式で音声データを保存する。原音にないノイズが確認された場合は必要に応じ、原音を損なわない程度に音声編集ソフトウェアを用いてノイズ処理を行う。

(5) デジタル化が終了したカセットテープを A 面先頭まで巻き戻す。

3. 2 音声データの仕様

(1) デジタル化の作業は、1 個カセットテープごとに 1 個可搬記憶媒体 (CD-R 等) とし、最初から最後まで遺漏なく行うこと。

(2) カセットテープの 1 つの面の最後の方に録音されていない部分が存在する場合も、必ず最後までデジタル化作業を行うこと。ただし、全く音声が記録されていない面は、デジタル化しない。

(3) 必要に応じてノイズリダクション等の処理を音声編集ソフトウェアで行った後、下記 (4) で指定する形式で保存すること。

(4) フォーマット

音声データのフォーマットは、リニア PCM 対応の非圧縮形式である WAVE 形式 (WAV ファイル (RIFF Waveform Audio Format))。拡張子は「.wav」で音声データを保存すること。

(5) デジタル変換時のデータ品質

音声データのサンプリング周波数は 48kHz、ビット深度は 24bit とする。

(6) 再生機器

再生に用いるオーディオカセットデッキは、下記アからオまでに示した機能と同程度の機種を用意すること。

ア テープ速度が 4.76 cm/s の等速度再生を維持できること。

イ 0.3% 以下の速度偏差であること。

ウ 0.1% 以下のワウ・フラッター性能を持つこと。

エ ノーマルポジション、メタルポジション等の種類別再生機能を持つこと。

オ 30~20kHz、+2dB/-3dB 以上の周波数特性を持つこと。

(7) 変換器

A/D 変換器は、最低でも 48kHz/24bit 以上のデジタル化の能力を持つものを使用することとし、十分な性能を確保するため、可能であれば 96kHz/24bit 以上のデジタル化に対応可能な性能を有するものを用いること。

(8) 品質確認に係る検聴作業

ア 作成した音声データは、冒頭、中間及び最後の 3 ヶ所を各 30 秒程度検聴すること。

イ 検聴の結果、原音に比べて、録音の音が割れてゆがんでいるように聞こえる、非常に音が小さい又は大きいなど音質が著しく劣化しており、かつ、改めてデジタル化作業を行うことで音質の改善が見込まれる場合、改めてデジタル化作業を行うこと。

ウ 録音レベルが良好でない場合、左右のバランスや入力レベル等の調整を図ること。ただし、スクラッチノイズ等、再生時にどうしても含まれるノイズが含まれることはやむを得ないものとする。

エ 原資料のデジタル化検査終了後、検聴の異状の有無を別紙第 2「音声データデジタル化納品リスト」に記載すること。

(9) ノイズの処理

ア 試聴及び検聴の結果、原音にはないノイズが確認できる場合、必要に応じて音声編集ソフトウェアを用いて目立たない程度のノイズ処理をすること。

イ 完全にノイズを除去することは不可能であることから、原音を損なう無理なノイズの除去作業は行わない。一方、原音に明らかにノイズと判断される音が含まれている場合、ノイズ処理は行わない。

ウ ノイズが含まれる場合、或いはノイズ処理を行った場合は、別紙第 2「音声データデジタル化納品リスト」に記載する。

(10) 格納形式

ア 格納媒体 : CD-R (1 層、650/700MB) 又は DVD-R (1/2 層 4.7/5GB)

- イ 論理フォーマット : JOLIET 又は ISO (level1) のいずれかとする。
- ウ ファイル名の付与 : CD-R 等 1 枚毎にファイル名を付与する。
- エ 格納媒体の耐用年数 : メーカー公表値 30 年以上
- オ 納品形態 : 媒体表面に別途指示するタイトル等の情報を印字 (CD-R に直接印字) する。
- カ 書き込み規制 : クローズセッション、追記禁止
- キ CD-R 等格納ケース : 厚さ 5mm の薄型の格納ケースに入れること。CD-R 等 1 枚につき 1 ケースとする。

【音声データ格納媒体の印字の一例】

CD-R 等表面印字



CD-R 等保護用プラスチックケース
(※5mm スリムケース使用)

ケースから表紙を取り除き、
CD-R 等が直接見えるようにする。

3. 3 補修等

役務遂行上、当該役務を遂行できないカセットテープの不具合を発見した時と表題とデータ記録内容が相違した場合は、官側とすみやかに協議すること。

3. 4 検査

納入時、官側が指定した端末等において可搬記憶媒体に格納された音声データの検査を行う。

4. その他

4. 1 貸付品

契約相手方は、表 1 に示す貸付品を無償で貸付けすることができる。

引渡しの際には受領書 (様式適宜) を、返納時には返納書 (様式適宜) を作成し官側に提出する。官側とともに現品の亡失、損傷がないか確認を行うものとする。

表 1 - 貸付品

名称	秘密区分	予定数量	引渡時期	引渡場所	返納時期	返納場所
カセットテープ	なし	158 本	契約後、速やかに	防衛研究所	納品時	防衛研究所
カセットテープ デジタル化目録 (令和 4 年度)	なし	一式				

4. 2 提出書類

提出書類については、表2のとおりとする。

表2－提出書類

名称	部数	提出時期	様式等	提出場所	備考	
作業実施計画	1 部	契約後、 速やかに	様式 適宜	防衛省 防衛研究 所	作業管理体制、作業項目、工程表等を含む	
使用電子化機器器材表					使用機器材の機種名、台数	
受領書		貸付品 引渡時				
返納書						
音声データデジタル化納品リスト	2 部	納品時	別紙第 2			CD-R 等に加え、紙 (2 部) 提出
作業実施記録			別紙第 3			作業実施日毎作成
消去証明書	1 部	納品後から 納期までに 速やかに	様式 適宜			

4. 3 権利

本役務で作成されたデータ等の編集著作権及び成果物に係わる一切の権利は、官側に帰属するものとする。

4. 4 その他

- (1) 契約相手方は、貸付品の盗難、破損等防止に留意するとともに、万一破損等が発生した場合は、速やかに官側に報告する。契約相手方の故意又は過失により生じた損害は、契約相手方の負担により修復するものとする。
- (2) この仕様書において疑義が生じた場合、契約相手方は直ちに官側と協議すること。

カセットテープデジタル化目録（令和4年度）

別紙第1

番号	ファイル番号	ファイル名	語り手	数量	備考
1	戦-0-1	田中 新一 回想録①～④	田中 新一	120分×3 90分×1	
2	戦-0-2	岩畔 豪雄 回想録①～②	岩畔 豪雄	120分×1 90分×1	
3	戦-0-3	高嶋 辰彦 回想録①～②	高嶋 辰彦	90分×2	
4	戦-0-4	井本 熊雄 回想録①～②	井本 熊雄	120分×1 90分×1	
5	戦-0-5	山口・小沢・矢部 回想録①～②	山口・小沢・矢部	90分×2	
6	戦-0-6	大井 篤 回想録①～②	大井 篤	90分×2	
7	戦-0-7	実松 譲 回想録①～③	実松 譲	120分×3	
8	戦-0-8	高田 利種 回想録①～②	高田 利種	90分×2	
9	戦-0-9	与謝野 秀 回想録①～②	与謝野 秀	90分×2	
10	戦-0-10	芳沢 謙吉 回想録①～②	芳沢 謙吉	120分×2	
11	戦-0-11	高瀬 寿郎 回想録①～②	高瀬 寿郎	120分×2	
12	戦-0-12	西 春彦 回想録①～③	西 春彦	90分×3	
13	戦-0-13	中村 建夫 回想録①～④	中村 建夫	120分×4	
14	戦-0-14	稲田 正純 回想録①～⑥	稲田 正純	120分×6	
15	戦-0-15	中沢 佑（ミッドウェー作戦） 回想録①～②	中沢 佑	90分×2	
16	戦-0-16	満州30年記念		90分×1	
17	戦-0-17	湘桂作戦		120分×4 90分×1	
18	戦-0-18	林秀澄氏談話（第38軍参謀憲兵大佐） 一大東亜戦争末期の日本の対仏印政策を廻ってー	林 秀澄	120分×2	
19	戦-0-19	連合艦隊解散式訓示（東郷元帥）	東郷元帥	30分×1	
20	戦-0-20	湘西作戦 関根支隊 茶山・万福山の戦闘		90分×1	
21	戦-0-21	湘西作戦 69D115ibの行動	林正行大尉 寺田太十兵衛	90分×1	
22	戦-0-22	小林仁海軍中將（人事局主席局員） 時代の回想	小林仁	90分×1	
23	戦-0-23	山本長官遭難時の海軍側陸上捜索隊長吉田氏談話	佐6特第8中隊 第1小隊長海軍少尉	120分×1	
24	戦-0-24	第6師団歩兵第47連隊長谷川部隊行動記録		90分×1	
25	戦-0-25	海軍航空機用機種について No1、No2 ー日本製鉄所元社長新谷氏談話ー	日本製鉄所元社長 新谷氏	120分×1	
26	戦-0-26	海軍航空機用機種について No3 海軍航空機種の製造について	日本製鉄所元社長 新谷氏	120分×1	
27	戦-0-27	航空発動機開発の話聞く その1～4 石川島播磨重工副社長永野治（海軍技術中佐）	永野治 （海軍技術中佐）	120分×2	
28	戦-0-28	用兵思想の変遷（海幹校CS課程学生） 用兵思想の話（海幹校高級課程学生）	末国正雄 （海軍中佐）	120分×3	
29	戦-0-29	第一次特別攻撃隊指揮官佐々木半九氏談	佐々木半九	120分×1	
30	戦-2-1	4航軍の機密作戦日誌 1	佐藤勝雄	60分×1	
31	戦-2-2	4航軍の機密作戦日誌 2	佐藤勝雄	60分×1	
32	戦-2-3	陸軍航空の生い立ち	佐藤勝雄	120分×1	
33	戦-2-4	陸軍航空の生い立ち 2	佐藤勝雄	120分×1	
34	戦-2-5	ノモンハン・レイテ	長嶺秀雄	120分×1	
35	戦-2-6	真珠湾攻撃の功罪	角田求士	120分×1	
36	戦-2-7	統連合（暗号）	長田順行	120分×2	
37	戦-2-8	統連合	内田一臣	120分×1	
38	戦-2-9	統連合	市来俊男	120分×1	
39	戦-2-10	統連合	高木作之	120分×1	
40	戦-2-11	インパール作戦	杉浦	120分×1	
41	戦-2-12	戦史研究法	近藤新治	120分×1	
42	戦-2-13	戦史研究法	近藤新治	120分×1	
43	戦-2-14	戦史研究の死角（昭和天皇の戦争指導）	近藤新治	120分×1	
44	戦-2-15	大東亜戦争の統一的観察	桑田悦	120分×1	
45	戦-2-16	義烈空挺隊・陸軍挺進部隊	田中賢一	120分×1	

カセットテープデジタル化目録（令和4年度）

別紙第1

番号	ファイル番号	ファイル名	語り手	数量	備 考
46	戦-2-17	戦争史随想	児島襄	120分×1	
47	戦-2-18	大本営	森松俊夫	120分×1	
48	戦-2-19	大本営の機能と問題点	森松俊夫	120分×1	
49	戦-2-20	総力戦研究所	白井正辰	120分×1	
50	戦-2-21	昔の陸軍こぼれ話	白井正辰	120分×1	
51	戦-2-22	THE END OF WAR 〈A〉～〈G〉	古川昇	120分×4 90分×3	
52	戦-2-23	日米統率の比較論	中村梯次	120分×1	
53	戦-2-24	クラウドゼヴィッツ入門 1－1	前原透	120分×1	
54	戦-2-25	クラウドゼヴィッツ研究会（後編その1、その2）	前原透	90分×2	
55	戦-2-26	クラウドゼヴィッツの読み方 〈1〉－1	前原透	120分×1	
56	戦-2-27	クラウドゼヴィッツの読み方 〈2〉	前原透	120分×1	
57	戦-2-28	クラウドゼヴィッツの読み方 〈3〉－1、2	前原透	90分×2	
58	戦-2-29	クラウドゼヴィッツの読み方 〈4〉	前原透	120分×1	
59	戦-2-30	クラウドゼヴィッツの読み方 〈5〉－1、2	前原透	60分×1 90分×1	
60	戦-2-31	クラウドゼヴィッツの読み方 〈6〉－1、2	前原透	60分×1 120分×1	
61	戦-2-32	クラウドゼヴィッツの読み方 〈7〉	前原透	120分×1	
62	戦-2-33	クラウドゼヴィッツの読み方 〈8〉	前原透	120分×1	
63	戦-2-34	海軍軍戦備 1、2	末国正雄	120分×2	
64	戦-2-35	海軍を語る 前・後	末国正雄	120分×2	
65	戦-2-36	赤軍講座（1－1）（1－2）	加登川幸太郎	90分×2	
66	戦-2-37	赤軍物語（1）（1）	加登川幸太郎	120分×2	
67	戦-2-38	赤軍物語（2）	加登川幸太郎	120分×1	
68	戦-2-39	赤軍物語（3）（4）	加登川幸太郎	120分×2	
69	戦-2-40	赤軍物語（5）	加登川幸太郎	120分×1	
70	戦-2-41	赤軍物語（7）	加登川幸太郎	120分×1	
71	戦-2-42	赤軍物語（最終回）	加登川幸太郎	120分×1	
72	戦-2-43	中国陸軍	加登川幸太郎	120分×1	
73	戦-2-44	中国陸軍	加登川幸太郎	120分×1	
74	戦-2-45	統連合：中国と日本陸軍 1	加登川幸太郎	120分×2	
75	戦-2-46	統連合：中国と日本陸軍 3	加登川幸太郎	90分×1	
76	戦-2-47	統連合：中国と日本陸軍 1	加登川幸太郎	120分×1	
77	戦-2-48	統連合：中国と日本陸軍 2	加登川幸太郎	120分×1	
78	戦-2-49	統連合：中国と日本陸軍 3	加登川幸太郎	120分×1	
79	戦-2-50	統連合：中国と日本陸軍（最終回）	加登川幸太郎	120分×1	
80	戦-2-51	人物日本陸軍史 1	加登川幸太郎	120分×1	
81	戦-2-52	人物日本陸軍史 2	加登川幸太郎	120分×1	
82	戦-2-53	人物日本陸軍史 3	加登川幸太郎	120分×1	
83	戦-2-54	人物日本陸軍史 4	加登川幸太郎	120分×1	
84	戦-2-55	人物日本陸軍史 5	加登川幸太郎	120分×1	
85	戦-2-56	人物日本陸軍史 6－1、6－2	加登川幸太郎	60分×2	
86	戦-2-57	人物日本陸軍史 7－1、7－2	加登川幸太郎	60分×2	
87	戦-2-58	人物日本陸軍史 8	加登川幸太郎	120分×1	
88	戦-2-59	人物日本陸軍史 9	加登川幸太郎	120分×1	
89	戦-2-60	人物日本陸軍史 10	加登川幸太郎	120分×1	
90	戦-2-61	人物日本陸軍史 11	加登川幸太郎	120分×1	
91	戦-2-62	人物日本陸軍史 その1	加登川幸太郎	60分×1	

カセットテープデジタル化目録（令和4年度）

別紙第1

番号	ファイル 番号	ファイル名	語り手	数量	備 考
92	戦-2-63	人物日本陸軍史 続1、続2	加登川幸太郎	60分×2	
93	戦-2-64	人物日本陸軍史 14	加登川幸太郎	120分×1	
94	戦-2-65	人物日本陸軍史	加登川幸太郎	120分×1	
95	戦-2-66	人物日本陸軍史 16-1、16-2	加登川幸太郎	120分×2	
96	戦-2-67	人物日本陸軍史 17-1	加登川幸太郎	120分×1	
97	戦-2-68	人物日本陸軍史 17-2	加登川幸太郎	120分×1	
98	戦-2-69	人物日本陸軍史 18-1、18-2	加登川幸太郎	120分×2	
99	戦-2-70	人物日本陸軍史 19-1、19-2	加登川幸太郎	120分×2	
100	戦-2-71	人物日本陸軍史 20-1、20-2、20-3	加登川幸太郎	120分×2	
101	戦-2-72	人物日本陸軍史 21	加登川幸太郎	120分×1	

作業実施記録

契 約 番 号			
契 約 年 月 日			
契 約 件 名			
会 社 名			
作 業 期 間			
作業実施場所			
令和 年 月 日 曜日	監督官	印	
作業実施責任者（現地管理者）	氏 名	印	
作業実施者氏名	時間	M／H	作業内容
監督官所見			